
平成20年度予算第一特別委員会質問要旨

○ 局別審査

平成20年3月3日

質問者（質問順）

- 1 高橋正治委員（公明党）
- 2 山田桂一郎委員（民ヨコ）
- 3 杉山典子委員（無所々）
- 4 關美恵子委員（共産党）
- 5 渡邊忠則委員（自民党）
- 6 酒井誠委員（自民党）
- 7 川口珠江委員（民主党）

教育委員会事務局

局 別 審 査

1 高 橋 正 治 委員（公明党）

1 市立中学校における事故について

- (1) 警察や市長への連絡に時間を要したのはなぜか。
- (2) 事故の第一報があったとき、教育長として最初にとった行動は何か。
- (3) 学校における安全管理について、どのように認識しているのか。
- (4) 学校における事故防止の推進に向けて、教育委員会では、今後どのように取り組んでいくのか。
- (5) この取り組みに対する佐々木副市長の考えを伺いたい。

2 横浜の教育が目指すものについて

- (1) 「横浜教育ビジョン」で描く横浜の教育が目指すものについて伺いたい。
- (2) 中教審答申の特色を「横浜版学習指導要領」ではどのように位置付けていくのか。
- (3) 「横浜版学習指導要領」の特色的実現に向けてどのような支援をしていくのか。

3 横浜のこれからの「学び」について

- (1) 小中一貫教育について
 - ア 「横浜版学習指導要領」の中では、小中一貫教育をどのようにとらえているのか。
 - イ 「小中一貫カリキュラム」のマネジメントの具体的な進め方と、その効果について伺いたい。
 - ウ 連携により、リソースが足りなくなるという危惧があると思うがどうか。
- (2) 国語力の向上について
 - ア 本市における、国語力の現状と課題について、どのように認識しているのか。

イ 国語力の向上のためにどのように取り組み、なかでも読書活動についてはどう取り組むのか。

ウ 図書館による学校の読書活動の支援について、学校との連携の現状と課題及び今後の事業展開をどうしていくのか。

(3) 情報モラル教育、社会的スキル横浜プログラムについて

ア 本市では、情報教育をどのように進めていこうと考えているのか。

イ 本市では、情報モラル・マナー教育をどのように進めているのか。

ウ 「子どもの社会的スキル横浜プログラム」のねらいについて伺いたい。

エ 学校における「社会的スキル横浜プログラム」活用の進ちょくはどうか。また、保護者との連携や情報発信の取り組みについて伺いたい。

オ 今後、「社会的スキル横浜プログラム」の活用については、どのように進めて行くのか。

(4) 環境教育について

ア 学校における環境教育の考え方はどのようなものか。

イ 学校における環境教育の成果は何か。また、課題をどのように認識しているか。

ウ 環境教育の課題解決に向け、学校をどう支援していくのか。

(5) キャリア教育について

ア キャリア教育の目的はどのようなものか。

イ キャリア教育の目的を実現するために、どのような取り組みを行うのか。

ウ キャリア教育実践プロジェクト事業で協力者の確保をするための具体的方策は何か。

エ 現在の具体的な受け入れ先はどういったところか。

(6) 食教育の推進、中学校昼食の充実について

ア 食教育推進計画に基づき、学校における食教育について、20年度はどのような展開を図っていくのか。

イ 中学校昼食の充実については、20年度はどのような取り組みを行うのか。

ウ 充実方法として、小学校から、隣接している中学校への昼食の提供も考えられると思うがどうか。

4 特別支援教育について

(1) 普通学級に在籍する発達障害のある児童生徒への支援体制について

- ア 小・中学校の特別支援教育校内委員会の活動状況について伺いたい。
- イ 「専門家支援チームの派遣」の実施状況とその成果や課題について伺いたい。
- ウ 発達障害のある児童生徒への支援体制の充実に向けて、保護者に対する相談機能も含め、今後、どのように取り組んでいくのか。

(要望) 特別に支援が必要な子どもたちへ、きめ細かな支援がなされるよう要望します。

(2) 新治特別支援学校の移転整備について

- ア 新治特別支援学校の移転が必要な理由は何か。
- イ どのような経過で旧若葉台東小学校跡施設を活用することとしたのか。また、これを地元や保護者等へはどのように説明してきたのか。
- ウ 施設内容はどのようなものになるのか。また、今後の整備スケジュールについて伺いたい。

(3) 高等特別支援学校における職業教育について

- ア 高等特別支援学校の就労率と就労業種について伺いたい。
- イ 現在の職業教育の内容と課題について伺いたい。
- ウ 就労業種の変化への対応や、就労先の開拓に向けて、職業教育を今後どのように充実させていくのか。

5 不登校対策について

- (1) 本市の不登校児童生徒数の推移と、最近の不登校調査から見える、不登校児童生徒のタイプ別の特徴について伺いたい。
- (2) 不登校状態にある児童生徒に対して、人間関係への自信を回復させ、社会的な自立を支援するための教育委員会の具体的な取り組みについて伺いたい。
- (3) 今後、不登校への対応やその予防に向けて、教職員に対する啓発や民間との連携強化について、具体的にどのように取り組んでいくのか。

2 山 田 桂一郎 委員（民ヨコ）

1 教育長の教育観について

- (1) 教育長の教育観と、教育への思いについて伺いたい。
- (2) 教育長が教師を志した理由について伺いたい。

2 市立学校の国旗掲揚・国歌斉唱について

- (1) 入学式や卒業式などの儀式的行事において、国歌斉唱時に起立しない教職員の調査をしているか。
- (2) 神奈川県教育委員会の取り組みについてどう考えるか。
- (3) 教育委員会として参列して、実態を把握する体制を作れないか。

3 教科の必履修化について

- (1) 市立高校でも日本史を必履修とすべきと考えるがどうか。

4 いわゆるモンスターペアレントについて

- (1) いわゆるモンスターペアレントの実態と対応について伺いたい。
- (2) 本市では、具体的な対応マニュアルを作成していく予定はないのか。
- (3) 苦情や要望等の課題解決に向けての、校長への研修は行われているのか。

5 学校給食について

- (1) 本市の学校給食費の未納状況はどのようにになっているのか。
- (2) 給食費未納に対する本市の基本姿勢について伺いたい。
- (3) 今後、未納者への対応をどのように考えているのか。
- (4) 横浜市学校給食会は、どのようなメンバー構成になっているのか。
- (5) 安くて安全な食材を確保するための仕組みが必要と考えるがどうか。

6 男女混合名簿について

- (1) 男女混合名簿は、どのような意図で導入されたのか。
- (2) 男女混合名簿の具体的なものは何か。
- (3) 男女混合名簿の導入による効果は何か。また、効果のあった例はあるか。

7 横浜版学習指導要領「横浜の時間」について

- (1) 「横浜の時間」のねらいは何か。
- (2) 「横浜の時間」導入・実施に向けた次年度の取組内容は、どのようなものか。
- (3) 「横浜の時間」の充実を図るために、どのような工夫をしていくのか。

(意見) I T T Oとタイアップして進める環境教育プロジェクトの推進を提案します。

(要望) 魅力的なプログラム創りのために、広くさまざまな機関、企業、民間グループなどと連携して、プログラムの充実を図っていただくよう要望します。

8 I C T（情報通信技術）活用促進事業

- (1) I C Tの教育現場での活用状況はどうか、課題はどこにあるか。
- (2) 20年度はI C T活用促進に関してどのような取組を予定しているか。
- (3) 提案したインターネットを活用したグローバル教育ネットワークなどは、I C Tの活用の最先端を行く取り組みと思うが、本市もこういった活用を目指すべきと思うかどうか。

(意見) 開港都市横浜にふさわしい国際教育をI C Tをうまく使って展開していただきたい。さきほど、提案したI T T Oとの環境教育プログラムなどと合わせて、横浜ならではのカリキュラムの構築と実践を提案します。

3 杉 山 典 子 委員（無所ク）

1 市立中学校における事故について

- (1) 事故の経過について伺いたい。
- (2) 学校で事故が起こった場合の緊急時の連絡先はどうなっているのか。
- (3) 食中毒があったら保健所へ、事故があったら警察へという認識が学校にはないのではないか。
- (4) 第三者傷害の場合、消防から警察へ通報があるとの話を聞いた。消防に問い合わせたところ、運動競技中の事故で第三者の関与はなかったという認識だった。なぜ、そうなったのか。
- (5) 救急隊員は砲丸があたったとは把握していなかったということか。
- (6) 連絡の遅れは教育委員会事務局の責任であったと考えざるを得ないが、教育長の考えを伺いたい。
- (7) 校長や派遣された指導主事を含め、だれも警察に通報しなかった責任についてはいかがか。
- (8) 指導主事が派遣されていながら、結果的に警察への連絡が遅れている。教育委員会の指導はあったのか、なかったのか。
- (9) 今回の事故に対する教育委員会の考え方は、遺憾なのか、謝罪なのか。
- (10) 事件や事故を外部に出したくないという教育委員会の体質が問題ではないのか。

2 学校給食について

- (1) 調理加工品については、どのように購入しているのか。
- (2) 班別購入とはどのような制度か、仕組みについて伺いたい。
- (3) 肉や青果類の入札状況を見ると、同一業者の受注が目立つが、事業者の登録状況について伺いたい。
- (4) 経年の登録業者数の推移について伺いたい。
- (5) 登録業者が増えていないようだがなぜか。また、増やす努力はしているのか。

- (6) 19年度より、米飯献立を週2.5回から2.8回に増やしたと聞いているが、今後、さらに増やす考えはないか。
- (7) 今の仕組みにとらわれるのではなく、米飯給食を増やすにはどうしたらいいかという視点で考える必要があると思うがどうか。
- (8) 学校給食会で実施している自主検査の実施状況はどうなっているのか。
- (9) 今後、学校給食会の役割をどのように考えているのか。
- (要望) 安心な、安全、豊かな給食が子どもに提供されるように、自校方式に向けて給食会のあり方を見直すことを要望します。
- (10) 平成19年第4回定例会において、若林議員が入札状況について公開を求めたが、どのように検討しているのか。

4 関 美恵子 委員（共産党）

1 英語教育について

- (1) 担任が授業の準備をし、A E Tは指導補助となるが、担任には英語を教える免許がない。この体制で教育といえるのかどうか。
 - (2) 小学校の英語を教育と受けてよいのか。
 - (3) 免許を持たない教員が準備をすることが教育といえるのか。
 - (4) 教科ではなく領域というものがあるが、英語は領域なのか。
 - (5) コミュニケーション能力を付けるとして、ゲームを通して行うとしている。文法は教えてはいけないと聞いている。これで教育といえるのか。
 - (6) 委託業者マクシードと交わしている2007年度の仕様書では、英語教育と書かれているが、この表現はふさわしくないと思うがどうか。
 - (7) 市が行おうとする小学校の英語教育は、教育の専門性をないがしろにするもの。実施するなら専科を充てるべきと考えるがどうか。
 - (8) 教材準備が担任の過重負担にならないか。特に、高学年においては中休みも十分に取れないと聞いている。教員の病気や退職に繋がることも考えられるがどうか。
 - (9) 実際問題として、担任とA E Tとの打合せ時間の確保が困難と聞いている。どう解決するつもりなのか。
 - (10) 現場の教員の合意を得て、条件を整えて進めるべきではないか。
 - (11) 文部科学省では、5年生からの実施としている。母国語をきちんと教えることが大事ではないのか。英語を1年生から取り入れると、どちらも中途半端になるという専門家の声もある。どう考えているのか。
- (意見) 小学校からの英語教育が本当に必要なのか疑問である。見直していただきたい。

2 学校特別営繕費

- (1) 減額した学校施設老朽箇所改修費等について、5箇年の推移を伺いたい。
- (2) 2004年度に比べ約34億円も減になっている。学校施設老朽箇所改修費等は教育環境の整備を目的とした不可欠な費用である。減額した理由を伺いたい。

(3) 耐震補強工事は別枠にして学校施設老朽箇所改修費等については、増額すべきではないのか。佐々木副市長に伺いたい。

5 渡 邊 忠 則 委員（自民党）

1 伝統と文化を尊重した教育の推進について

- (1) 伝統と文化を尊重した教育について、今田教育委員長の見解を伺いたい。
- (2) 国語教育の充実に向けて、どのように取り組むのか。
- (3) 「道徳の時間」を通して、伝統と文化を尊重する子どもをどのように育てるのか。
- (4) 「横浜の時間」で横浜の特色である伝統と文化をどのように学習させるのか。

2 小中一貫英語教育の推進について

- (1) 小中学校9年間で一貫した英語教育を導入するねらいは何か。
- (2) 小学校における英語活動のねらいと到達目標はどのようなことか。
- (3) 本市で、小学校英語活動を全学年で行う理由は何か。
- (4) 小学校での英語活動を受けて、中学校における英語教育のねらいと到達目標はどのようなことか。

(要望) 小学校と中学校との連携が十分に行われ、日本の伝統や文化を尊重しつつ、小中学校9年間による英語教育により、国際社会の発展に貢献する子どもたちの育成に、引き続き取り組んでいただくことを要望します。

3 理数教育の充実と横浜サイエンスフロンティア高校の整備について

- (1) 横浜サイエンスフロンティア高校の教育内容の具体的な特色について改めて伺いたい。
- (2) スーパーアドバイザーの先生方の同校への支援は、具体的にはどのようなものになるのか。
- (3) 理化学研究所との連携・協力の具体的な内容について伺いたい。
- (4) 横浜サイエンスフロンティア高校の学習環境について伺いたい。
- (5) 横浜サイエンスフロンティア高校の通学区域の考え方について伺いたい。
- (6) 横浜サイエンスフロンティア高校の入学者選抜の考え方について伺いたい。
- (7) 今後の開校に向けたPRの取組について伺いたい。

4 分権型教育行政組織の再構築（学校課題対応支援事業）について

- (1) 今般、4方面とした背景や理由について伺いたい。
 - (2) 学校課題対応支援の2事業を先行させる理由は何か。
 - (3) センターの整備に際して、保護者や地域との信頼の構築に向けて、どのように取り組んでいくのか。
 - (4) 市全体としての取組の共有について、どのように考えているのか。
- (要望) 危機管理については、学校や事務局と関係機関との適切な連携・調整が不可欠と考えます。そのための仕組みづくりにも、しっかりと取り組んでいただきたいと強く要望します。
- (5) センターが設置されることで、関係機関とより一層連携した取り組みができると考えるが、佐々木副市長の見解を伺いたい。

6 酒 井 誠 委員（自民党）

1 学校と地域の連携について

- (1) 地域交流室を設置する目的と整備手法はどのようにになっているのか。
 - (2) 地域交流室の整備計画と整備状況はどのようにになっているのか。
 - (3) 地域交流室はどのように活用されているのか。
 - (4) 地域コーディネーター養成の目的と、養成のスケジュールについて伺いたい。
 - (5) 地域コーディネーター養成講座の内容はどのようなものか。
 - (6) 養成講座終了後、地域コーディネーターにはどのような活動が期待されるのか。
 - (7) 現在までに組織されている小学校の学援隊の数及びその占める割合はどのようになっているのか。
 - (8) 学援隊のさらなる拡大や、活動の継続・充実について、どのように取り組んでいくのか。
 - (9) 学校運営協議会設置のねらいは何か。
 - (10) 学校運営協議会の現在の設置状況はどのようにになっているのか。
 - (11) 学校運営協議会設置に関する今後の方向性について伺いたい。
- (要望) 学校が子どもたちにとって豊かな学舎となるため、学校では保護者や地域とのより一層の連携に努めていただくよう要望します。

2 学校開放事業について

- (1) 学校開放事業の見直しを行った背景について伺いたい。
- (2) 主な改正点は何か。
- (3) 今回の見直しについて、市民からはどのような意見が出ているのか。
- (4) 調査結果からはどのようなことがわかったのか。
- (5) 今後、どのように事業を進めていくのか。

3 小中一貫教育の推進について

- (1) 本市においては、どのように小中一貫教育を推進していくのか。

- (2) 小中一貫教育の推進にあたって、教職員の理解をどのように深めていくのか。
- (3) 「小中一貫教育推進ブロック」に対し、教育委員会はどのような支援をしていくのか。
- (4) 「小中一貫教育推進ブロック」での取り組みの成果は、どのように活用されるのか。

4 小・中学校の教室不足対応について

- (1) 本市の児童数・生徒数の全市的な傾向及び区別の傾向はどうなっているのか。
- (2) 児童生徒数の増加が見込まれ、教室不足が生じるような場合には、どのような対策を図っているのか。
- (3) 児童生徒数、学級数の推計はどのように行っているのか。
- (4) 事務所・事業所の移転に伴う住宅建設計画の把握について、どのように対応していくのか。

(要望) できる限り、早期に住宅建設情報を把握して、教室不足とならないよう早めの対応を要望します。

5 学校施設整備基金について

- (1) 20年度には基金をどのように活用するのか。
 - (2) 学校施設の長寿命化をどう進めていくのか。また、今後の修繕費の確保について考え方を伺いたい。
- (要望) 学校施設の計画的な保全、建替え、増築等及び廃止した学校の解体に必要な経費に充てる基金と、今後の営繕費による修繕対策の推進を要望します。

7 川 口 珠 江 委員（民主党）

1 20年度教育予算案への所感について

(1) 20年度教育予算案について、教育長の所感を伺いたい。

2 ヨコハマ語学教育推進事業（はまっ子読書ノート）について

(1) 「はまっ子読書ノート」の内容と特長について伺いたい。

(2) 今後、「はまっ子読書ノート」を、どのように活用していくのか。

(3) 学校図書館の蔵書の充実を、どのように図ろうとしているのか。

(4) 各学校での工夫した、学校図書館の環境づくりにどのように支援していくのか。

3 中学校部活動支援事業について

(1) 学校教育における部活動の位置付けはどのようなものか。

(2) 市立中学校の運動部、文化部の加入状況はどうなっているのか。また、主な部活動はどのようなものがあるのか。

(3) 部活動を実施していくうえでの課題について伺いたい。

(4) 現在、部活動に対してどのような支援策を行っているのか。

4 保健室登校子ども支援事業について

(1) 本市小・中学校で、保健室登校をしている児童生徒がいる学校数と児童生徒数はどのくらいなのか。

(2) 保健室登校の児童生徒を抱えている学校に対して、どのような支援を行っているのか。

(3) 「保健室登校子ども支援事業」の成果として、どのようなことがあげられるか。

(4) 学校の派遣要望に対し、どの程度応えられているのか。

(5) この「保健室登校子ども支援事業」の課題と対策は何か。

5 児童指導体制強化研究モデル事業について

- (1) 小学校の児童指導上の課題をどのように受け止めているか、見解を伺いたい。
 - (2) 小学校での児童指導体制強化研究モデル事業で、どのような成果を期待しているのか。
 - (3) 本年度の当事業のモデル校での成果についてどのように受け止めているのか。
 - (4) モデル事業について、学校現場ではどのように受け止めているか。また、学校現場からどのような要望があがっているのか。
 - (5) モデル事業の今後の方針について、どのように考えているのか。
- (要望) 小学校現場での児童指導の現状をより重く受け止め、今後、この事業を積極果敢に展開していただくよう要望します。

6 分権型教育行政組織の再構築（学校課題対応支援事業）について

- (1) （仮称）学校教育センター整備検討に際して、現場の意見はどのように聞いているのか。
- (2) 「学校課題解決支援チーム」の構成をどのように考えているのか。
- (3) 「保護者対応・事件事故等発生時」となっているが、具体的にはどのように学校を支援するのか。
- (4) 「学校課題解決支援チーム」を充実するうえでの今後の課題は何か。

7 苦情・要望等解決支援体制構築事業について

- (1) どのようなケースを想定して、苦情・要望等の解決に向けた支援体制を検討していくのか。
- (2) 現在、係争中の案件はどの程度あるのか。
- (3) どのような支援体制の構築を目指しているのか。
- (4) 検討をどのような体制で進めるのか。
- (5) 検討スケジュールについて伺いたい。

8 小・中学校における特別支援教育の推進について

- (1) 19年度から開始した「特別支援教育実践推進校」の取組状況について伺いたい。
- (2) 「特別支援教室」は、校内のどのような場所に設置されているのか。また、標準的

なつくりはどのようになっているのか。

- (3) 「特別支援教室」では、どのような教員が授業を担当しているのか。
- (4) 「特別支援教室」では、何人ぐらいの児童生徒が指導を受けているのか。また、どのような指導が行われているのか。
- (5) 「特別支援教室」を設置することで、実際にどのような指導上の効果がでているのか。また、どのような課題があるのか。
- (6) 20年度は「特別支援教育実践推進校事業」を非常勤講師の配置など人的支援を含め、どのように進めていくのか。

9 横浜市養護教育総合センターの運営について

- (1) 養護教育総合センターにおける過去5年間の就学・教育相談件数の推移と内容について伺いたい。
- (2) 相談件数の急増の要因について、どのように考えているのか。
- (3) 「申し込み」から「相談」の実施までの期間は、どうなっているのか。また、児童生徒、保護者の相談は、どのように行っているのか。
- (4) 就学相談から就学先の決定までは、どのように行っているのか。
- (5) 専門相談員等の配置状況等、相談体制について伺いたい。
- (6) 障害のある子どもが増加し相談件数が増加する中、特別支援教育の専門教育機関として、養護教育総合センターの運営体制の充実に向けては、今後どのように取り組んでいくのか。

(意見) 特別支援学校制度が創設され、盲・ろう・養護学校から特別支援学校に名称が変更された現在、「養護教育総合センター」についても、特別支援教育の専門的相談支援センターにふさわしい名称に変更するよう提案します。